

平成31年度(令和元年度)

運営に関する計画

中間評価

大阪市立十三小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○ 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

1. 規範意識

- ・ H29 から研究を続けている道徳教育と、H27 から生活指導の基本として「十三小 五か条の心得」を全校児童に継続指導した結果、H30 の学校アンケートで「学校のきまりを守っている」と答える児童の割合は 92.0%で、2020 年度末に達成すべき、大阪市共通目標値 91.0%を超えた。
- ・ 今年度から、「十三小 五ヶ条の心得」に替えて「十三小 3つの大切～わたしが大切、あなたが大切、みんなが大切～」を展開することで、きまりだから守るという他律的な行動規範から 1 歩進んで、自分・相手・なかまの価値に気付き、大切にすることはどういうことかを自律的・主体的に考えて行動できるように働きかける。

2. 道徳心・社会性

- ・ 道徳心・社会性の育成については、道徳科を研究教科として公開授業や研修会を通年実施し、よりよい授業づくりをするとともに、授業参観で保護者・地域の方々に公開して、家庭や地域と切れ目のない教育活動を行った。
- ・ たてわりのなかよし班で出かける全校遠足を始め、なかよし班を話し合いの単位とした全校道徳の実施、振り返りまで行うなかよし清掃、児童集会や運動会でのなかよし班対抗ゲームなどを通した異学年交流により、人と関わる楽しさを中心に社会性を育んでいる。
- ・ 今年度から、なかよし班活動を自己有用感を高める場であると認識し、なかよし班担任を第二の担任と位置付けてさらに活発ななかよし班活動を仕掛ける。また、5 年生で地域清掃、6 年生で防災ジュニアリーダー活動を行って、人のために働き、感謝される経験を学校の外にも広げて、自己有用感、自己肯定感を持つ機会を増やす。

○ 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

1. 学力

- ・ 平成 30 年度全国学力・学習状況調査においては、国語 A・B、算数 A・B、理科とすべての科目で、大阪府平均と全国平均を下回った。大阪市学力経年調査に関する全市目標は、正答率が全市平均を 2 割以上上回る児童の割合が前年度データのある全学年で、10 ポイント以上増加した。
- ・ 課題は全市平均の 7 割に満たない児童の割合そのものが多いことと、学年が上がるにつれて増えることにある（3 年 10%、4 年 14%、5 年 17%、6 年 30%）ので、ICT 機器の効果的な利用や、習熟度別指導、入り込み指導などを選択的に行い、児童が学習内容を確実に理解できるようにする。また、話し合い活動やグループでの発表などの児童主体の授業形態を日常のものとして定着させ、動機を持って自ら学び、学ぶ楽しさを実感できるようにする。

2. 体力

- ・ 平成 30 年度全国体力・運動能力調査においては、男子・女子ともに全国平均及び市平均を下回ってしまった。
- ・ 肥満に分類される児童割合が市平均よりも多いこと¹と、運動がきらい²だったり、自信がなかつたりする児童の割合³が多いことが課題である。食育を進めるとともに、十三小の特色ある取組の一つである「運動チャレンジ週間」を利用して、運動の楽しさを体験し、日常の運動習慣に結び付ける。

*¹ 高度 - 軽度肥満割合 男子 本校/市/全国=16.7/ 11.3/8.1%、女子 10.0/7.9/7.9%

*² 運動がややきらい・きらい 男子 本校/市/全国=14.2/8.7/7.0%、女子 20.0/17.7/13.5%

*³ 体力・運動能力に自信があまりない・ない 男子 本校/市/全国=50.0/36.5/24.8%、女子 80.0/54.6/49.8%

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

（施策2 道徳心・社会性の育成）

- 平成32年度の学校アンケートにおける「友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。
- 平成32年度の学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。

（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

- 平成32年度の学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間450人以上にする。
- 平成32年度の学校アンケートにおける「学校のホームページを見ている」の項目について、「月に1回以上見ている」保護者の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）

- 平成32年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、100以上にする。
- 平成32年度の学校アンケートにおける「よい姿勢で学習していますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

（施策6 國際社会において生き抜く力の育成）

- 平成32年度の学校アンケートにおいて「ICT機器（タブレットやパソコン等）を使うことで、興味をもって学習することができましたか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）

- 平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、平均で男子53点以上、女子56点以上にする。
- 平成32年度の学校アンケートにおける「9時までに寝ていますか（1・2年）」「9時30分までに寝ていますか（3・4年）」「10時までに寝ていますか（5・6年）」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

（施策2 道徳心・社会性の育成）

- 学校アンケートにおける「友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を83%以上にする。
- 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

- 学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間430人以上にする。
- 学校アンケートにおける「学校のホームページを見ている」の項目について、「月に1回以上見ている」保護者の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、平均で男子52点以上、女子55点以上にする。

学校の年度目標

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 学校アンケートにおける「よい姿勢で学習していますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。

(施策6 国際社会において生き抜く力の育成)

- 学校アンケートにおいて「ICT機器（タブレットやパソコン等）を使うことで、興味をもって学習することができましたか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- 学校アンケートにおける「9時までに寝ていますか（1・2年）」「9時30分までに寝ていますか（3・4年）」「10時までに寝ていますか（5・6年）」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を55%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立十三小学校 平成31年度（令和元年度）運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 (認知件数 児童アンケート30件、保護者アンケート9件 指導100% 解消は指導後3か月後に判断) ○ 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。（12月に実施 校内調査88.5%） ○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 (前年度0人、今年度前期21人) ○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 (前年度0%、今年度前期1.2%) <p>学校の年度目標</p> <p>(施策2 道徳心・社会性の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校アンケートにおける「友達にやさしく・親切に接していますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を83%以上にする。(85.8%) ○ 学校アンケートにおける「自分には良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。(73.0%) <p>(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数を、年間430人以上にする。(9/30現在219人) ○ 学校アンケートにおける「学校のホームページを見ている」の項目について、「月に1回以上見ている」保護者の割合を85%以上にする。(84.3%) 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>児童の互いを認め合う態度を育て、いじめは絶対に許されない文化を学校に醸成する。</p> <p>指標 ①「いじめについて考える日」を実施し、その後もいじめについて継続指導を行い、児童が友達を大切にする心を養う。(5/13に実施)</p> <p>② いじめアンケートを児童に年3回、保護者に年2回実施し、いじめがあれば、解消に向けて全教職員で取り組む。(児童対象に毎学期、保護者へは1学期と3学期に実施)</p>	B
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>学校のきまりを守ることについて生活目標を設定し、日常的に繰り返し指導する。</p> <p>指標 ① 毎週、生活目標についてアンケートを実施し、達成状況を確認する。(毎週実施)</p> <p>② チャイムの合図を守る児童を90%以上にする。(児童90.5%、教員91.7%)</p>	B
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】	

「学校安心ルール」を児童・保護者に周知し、暴力行為を許さない文化を学校や学級に醸成する。また、様々な問題を話し合いで解決できるようにする。	C
指標 「何か問題が起った時に話し合いで解決している」と答える児童を83%以上にする。(82.4%)	
取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 児童の小さな変化に気付き、様子がいつもと違う場合には、管理職、養護教諭やスクールカウンセラー等に相談し、対応する。	B
指標 月に1回の職員会議や児童理解研修会で、児童の様子について全職員で共通理解を図る。 (実施)	
取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 道徳の時間を要として、各教科・領域で話合いやグループ活動等で、相互理解・共感を広げる取組を行うことにより、だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする子どもを育成する。	B
指標 年2回「親切・思いやり」週間を設定して、自分自身を振り返ると共に、親切で思いやりのある行動に対する動機づけをする。(6月と12月に実施)	
取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】 自己肯定感を醸成するとともに、互いを認め合う態度を育てることができるよう、場の工夫を行う。	C
指標 ① 月2回以上、なかよし班活動や児童集会などの異学年交流を図り、互いに理解し学び合う機会を設定する。(月2回以上実施) ② 各種名人を様々な分野で設定し、「がんばり名人」を放送で年3回紹介する。(毎学期実施) ③ 児童の行動をよく観察し、児童が自分の良さに気付けるように、教師から声掛けを行う。(実施)	
取組内容⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学校行事や教科・領域指導・読み聞かせ・放課後ステップアップ教室・見守り隊活動・交通安全指導・防犯・防災訓練などの取組への家庭・地域の参加を図る。	B
指標 学校行事への参加を促すため、手紙やホームページなどで月2回以上参加を呼び掛ける。(実施)	
取組内容⑧【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学校だより・学校ホームページを通して情報を発信し、学校の取組に対する情報の共有を推進する。	B
指標 ① 情報の共有を図るため、学校ホームページを週2回以上更新する。(週平均3.3回更新) ② 学校ホームページの年間アクセス数を前年度以上にする。(9月末現在約9500アクセス、昨年同時期約9000アクセス)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

○いじめの解消

1 学期において、いじめに関する認知件数は児童アンケート30件、保護者アンケート9件であった。いじれもアンケートを実施後、担任による事実確認を行い、対象児童への指導を行っている。

○学校のきまりの順守

「学校のきまり・規則を守っていますか。」の校内調査では、わずかに目標に届かなかったが、ほとんどの児童がきまりや規則を守っていると回答している。また、ほとんどの児童がチャイムの合図を含めた学校のきまりを守る行動はできている。順守できていない児童もいるが、日ごろの声掛けにより順守できるように促している。

○暴力行為の減少

・日頃の指導により、暴力はいけないとわかっているが、手が出てしまう児童がいる。何がいけなかつた

のかを振り返り、話し合う時間を作り指導をしている。

- ・自分の気持ちを適切な言葉で相手に伝えられず、トラブルを起こしてしまう児童がいる。

○不登校児童の減少

教職員間で共通理解を図りながら取り組みを続けているが、新たに不登校気味になる児童が増えていく。保護者との連絡が取りにくいなど課題もあるので、連絡会以外にも日常的に意見交換を行い、全教職員で見守るようにしている。

(施策2 道徳心・社会性の育成) の達成状況

○親切・思いやり

「親切・思いやり週間」などを設定し、友だちに対する思いやりや自分が親切にされた経験を振り返る活動を行ってきた。また、道徳の授業や日頃の生活経験の積み重ねによって、親切にすることの良さ・心地よさを知り、実践してみようとする児童が増え、学校アンケートでは、85.8%と目標を達成することができた。

○自己肯定感

なかよし清掃、ほめほめ集会、学級でのキラキラさんなど、様々な活動を計画、実施している。「自分には良いところがあると思いますか」のアンケート項目で肯定的に答える児童が73%と目標に届かなかつた。

(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援) の達成状況

○学校・家庭・地域の連携

学校教育に関わる取組への家庭・地域の参加者数は9月30日現在219人で、今後年間430人以上の目標を達成する見込みである。様々な取組に際して、家庭や地域に呼びかけることで、活動への参加者が増えている。

○情報発信

学校ホームページを保護者に見てもらえるように、ページを更新することで、常に新しい情報を発信できるようにしてきた。また、保護者メールの登録を進め、学校からのメールにホームページのリンクを貼ったり、ケイタイ用の学校サイトを紹介するなどして、ホームページのアクセスが増えるようにしてきた。その結果、学校アンケートにおける「学校のホームページを見ている」の項目について、「月に1回以上見ている」保護者の割合は84.3%と目標値85%に近づいている。

【取組内容】について

取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(いじめの解消) の進捗状況

- ① 5/13の「いじめについて考える日」では、校長が全校児童に向け、「3つの大切」(わたしが大切、あなたが大切、みんなが大切)の話をし、いじめのない学校にすることを呼びかけた。その後もいじめについて継続指導を行い、友達を大切にする児童の姿が多く見られる。
- ② 1学期は、児童と保護者を対象に「いじめアンケート」を実施した。アンケートで確認できたいじめについては、双方や周りの児童から事情を聞くなどして事実確認を行い、解消に向けて担任を中心に全教職員で取り組んでいる。また、保護者には指導内容とその後の経過を報告し理解を得るよう努めている。

取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(学校のきまりの順守) の進捗状況

- ① 児童朝会で担当の教員が月目標を達成するための手立てを児童に話すことで、生活目標を達成する意欲を持たせることができた。また、毎週末、生活目標についてアンケートを実施し、達成状況を確認することで、児童や教員の一週間の振り返りを行うことができている。
- ② アンケート項目で児童がチャイムの合図を守る意識は90%を超えており、目標を達成することが

できた。多くの児童が合図を守り、それまでしていたことをやめて次の行動に移ることができていた。

取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(暴力行為の減少)の進捗状況

- 問題行動が起こった時は、担任と管理職が中心となって話し合っている。その結果、1学期に実施した児童アンケートでは、「何か問題が起こった時に、話し合いで解決をした」と答える児童が、82.4%とほぼ目標値に達していた。
- 何かトラブルが起こった時には、お互いの考えを聞き、次にどのように行動をしたら良いかを考えていき、安心して過ごせるようにしている。

取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(不登校の減少)の進捗状況

児童理解研修会や特別支援教育全体会などで、気になる児童や支援を要する児童の共通理解を図っている。気になる児童に関しては、会議以外にも日常的に管理職や養護教諭、スクールカウンセラーなどと情報を共有し連携して対応している。

取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】(親切・思いやり)の進捗状況

計画通り6月に「親切・思いやり」週間を実施した。その中で、全校道徳を実施し、異学年の子ども達で、同じ教材について考え、多様な考え方を共有することができた。期間中、「親切・思いやり」について意識しながら毎日を過ごし、1週間の自分の活動を振り返ることができた。

その後も、友だちに対する思いやりや、自分が親切にされた経験を振り返る機会を設けることで、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする子どもを育成するようにしている。また、なかよし班活動や、朝の会、帰りの会での児童のよかつたところを褒め合うなどの活動を通して、友達に親切にし、思いやりのある行動をみんなで喜べる雰囲気が醸成されてきている。

取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】(自己肯定感)の進捗状況

- 児童集会、なかよし清掃、運動会でのなかよし班競技等を通して交流を図っている。上級生は下級生の世話をしたり、下級生は上級生に協力することで児童はお互いをよく知り合い親しみをもって接し、活動の場以外でも声を掛け合ったり異学年のつながりを強めることができている。特に、なかよし班清掃の振り返り活動では、友だちのがんばりを認め、褒め合うことができている。
- 「十三がんばり名人」で様々な名人を設定し、1学期末にがんばり名人として2学年の発表、放送での紹介をした。児童たちの嬉しそうに聞いている姿が多くあり、自分自身が頑張ってきたことを振り返ることができた。
- 児童の行動をよく観察し、児童が自分の良さに気付けるようまじめに頑張っていることのすばらしさなどを取り上げるようにしている。また、あらゆる機会を通して、全教職員で児童の行動を観察し、良い行いはその場で褒めたり担任に伝えたりして、児童の良さを本人に意識づけるように努めている。

取組内容⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(家庭・学校・地域の連携)の進捗状況

手紙やホームページなどで、月2回以上、家庭に学校行事への参加を呼びかけている。読み聞かせ、放課後ステップアップ教室、見守り活動は、地域の方や保護者のボランティア活動により、定期的に行われている。また、今年度は新1年生の保護者が給食試食会に参加するなど、新しい取組を行っている。

取組内容⑧【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(情報発信)の進捗状況

- 学校ホームページを週に3. 3回更新し、緊急の連絡や学校行事の途中経過等をホームページに掲載することで、保護者に新しい情報を提供することができた。
- 学校行事をタイムリーに発信することで、保護者の関心を得ている。学校ホームページのアクセス数が、9月末現在9500に達し、昨年度同期の9000を上回っている。常に新しい内容を配信することで、保護者が学校教育に関心を持つことができた。また、学校の様子を知ることで、学校に対して協力してもらうこともできている。

今後の改善点

【年度目標】について

○いじめの解消

アンケート調査において、いじめが確認された児童の継続指導を行うとともに、自己肯定感を高める指導を行い、児童の善の部分を引出すようにする。また、周囲の児童にも人の良い面を見る姿勢をもたせていく。

○学校のきまりの順守

休み時間開始時は運動場に出たい児童が廊下や階段を走りがちなので、安全に歩行することの大切さを考えさせるなど継続指導を行う。

○暴力行為の減少

- ・暴力行為に至る前に、気持ちをコントロールしていくように、言葉使いや感情の出し方、向き合の方についての指導を継続して行う。
- ・暴力行為に及ぶ経緯や心情をとらえて、内面的に寄り添っていく。

○不登校児童の減少

児童が抱えている事情について把握し、教職員間で共通理解しておくとともに、児童・保護者の変化の把握に努め、児童がいつでも登校できるよう環境を整えておく。

(施策2 道徳心・社会性の育成) の改善点

○親切・思いやり

言葉遣いも含め、自分の思いの伝え方を指導していく。また、相手の立場を理解できるよう、人の話をしっかりと受け止めることを習慣づけ、自然と人に親切にできる力を高めていく。

○自己肯定感

- ・自分の良さに気づきにくい児童には、普段の当たり前に行っていることのよさに気づけるよう声かけを続ける。自分自身を認めにくい児童たちには本人たちの持つありのままの良さを根気よく伝え続けていく。そのために普段から子どもたちの様子をよく観察し、担任以外の職員とも情報を共有する。
- ・保護者にも、数年間の児童アンケートの結果を知らせ、児童が自信を持てるよう家庭に協力を呼びかける。(例:自己肯定感を育てる方法などの本から、家庭でできることを簡単に紹介する。10月の懇談会の話題にするなど)

(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援) の改善点

○学校・家庭・地域の連携

今後も情報をこまめに発信し、家庭・地域の参加者を募っていく。また、取組後の様子をホームページでお知らせし、気軽に参加できる雰囲気を作っていく。学校だより、学校公開等でも引き続き十三小の取組について発信していく。

○情報発信

引き続き、周知、更新に努め、アクセスしてみたくなるような内容のアップをこころがける。また、ホームページ更新時に保護者へ周知を行う。

【取組内容】について

取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(いじめの解消) の改善点

- ① 今後も道徳科の授業において、いじめに関連する教材を指導者が意識して取り組み、いじめを生まない意識を高めていくようにする。また、いじめ行動が見られたときは、加害者側に、いじめにつながる

行為であることをしっかりと認識させる指導をおこなう。

- ② 2学期以降も、いじめに関するアンケートを行い、1学期のアンケートと照らし合わせて、改善に向かっているのか検討し、引き続き継続指導を行う。

取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(学校のきまりの順守) の改善点

- ① 学級担任だけでなく、どの職員も同じ声かけ、指導ができるように今後も共通理解を図り、学校全体で児童に指導していく。また、生活目標の達成状況を児童に知らせ、目標を達成するためにどうすればよいか学級会の議題に取り上げるなど話し合うことで児童の意識を高めていくようにする。
- ② 一部の児童ではあるが遊びはやめても靴箱周辺でのたむろや教室での過ごし方が遊びの延長になっている場合がある。気持ちを切り替える声かけを行うとともに、チャイムでの入室遅れが目につく児童には、事前の声かけも行うようにし、「チャイム席」を合言葉に教室に入るようとする成功体験を重ねていけるようにしていく。

取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(暴力行為の減少) の改善点

- ・ 衝動的に暴力をふるってしまう児童に対しては、話し合いで解決することの大切さを伝えていくとともに、困ったときに話を聞いてもらえるという安心感のある指導者との信頼関係作りをしていく。
- ・ 学級担任だけでなく、どの職員も同じ声掛けや指導ができるように、今後も共通理解を図り、学校全体で児童に指導をしていく。

取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(不登校の減少) の改善点

引き続き、児童・保護者との対話を通して、学校へ気持ちを向けるようにしていく。カウンセラーなど専門機関との連携を進め改善方法を模索する。また、カウンセラーの来校回数を増やしていくように、関係諸機関に働きかけていく。

取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】(親切・思いやり) の改善点

12月の「親切思いやり」週間では、全校道徳で(だれにでもやさしく)することについて考え、人に親切にすることの喜びに気付けるような取り組みを行う。その中で、親切にしている子が周りにたくさんいることを知らせると同時に、それなら自分にもできそうだなと思える行動がたくさんあることに気付かせ、今後の親切で思いやりのある行動に対する動機付けを図る。

また、学校のきまりを守ることで、相手への思いやりにつながることがたくさんあることに気付けるようにし、相手の立場に立った親切を考えられるようにする。

取組内容⑥【施策2 道徳心・社会性の育成】(自己肯定感) の改善点

- ① 木曜日の児童集会でのなかよし班活動、金曜日のなかよし清掃が行事等で抜けないようにする。教科学習や学級活動で異学年で交流授業を積極的に行う。
例「6年生が1年生と一緒に縄跳びをする」「5年生と2年生でいっしょにドッジボールをする」「低学年の生活科のように招待する」「ゲーム大会をする」「リコーダーを教える」など・・
- ② 「がんばり名人」の放送を楽しく盛り上げていく工夫を行い、集中して聞くと同時に人の良さを良い気持ちで受け入れられるような雰囲気を作っていく。
- ③ 教師の声掛け以外に、児童間でほめ合える機会を持つようとする。
例「帰りの会や学級活動の時間に、讃め言葉のシャワーを与える時間を設定する」など、全員が人の良いところを意識して見つける取り組みを継続して行う。

取組内容⑦【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(家庭・学校・地域の連携) の改善点

学級懇談会や郊外学習において見守り活動での保護者の参加者数が減っている傾向がある。児童のために学校と家庭が一体となって協力していくことの意義を伝え、参加しやすいように事前連絡を1か月以上前に行い、日が近づいて来たときに参加予定状況を伝えて、再度協力を依頼する呼びかけを行って

いく。

取組内容⑧【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(情報発信) の改善点

- ① 行事以外にも、各学年での学習の様子など学校での日常を伝えていく。学級担任は、ホームページにあげられそうな活動を管理職に事前に伝え、撮影可能な職員に写真撮影を依頼する。
- ② 引き続き保護者、地域の方へ向け、タイムリーに情報を発信していく。

大阪市立十三小学校 平成31年度（令和元年度）運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。（昨年度 4年 104.7 5年 97.3 6年 97.0 今年度は 12月に実施） ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。（12月に実施） ○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。（12月に実施） ○ 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。（前年度 79.5%） ○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、平均で男子 52 点以上、女子 55 点以上にする。（男子 52.0 点 女子 60.2 点） <p>学校の年度目標</p> <p>（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校アンケートにおける「よい姿勢で学習していますか」の項目について肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。（73.6%） <p>（施策6 国際社会において生き抜く力の育成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校アンケートにおいて「ICT 機器（タブレットやパソコン等）を使うことで、興味をもって学習することができましたか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。（94.6%） <p>（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校アンケートにおける「9時までに寝ていますか（1・2年）」「9時30分までに寝ていますか（3・4年）」「10時までに寝ていますか（5・6年）」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を55%以上にする。（50.7%） 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、3～6年生の国語と算数における習熟度別指導を充実させる。また、単元毎に少人数学習か習熟度別学習かの検討を行い、より効果的な指導を行う。	B
指標 学校アンケートにおける「習熟度別授業は自分のペースにあっているので授業内容が理解しやすい」と答える児童を75%以上にする。(81.6%)	
取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 全学年で毎日課題（宿題）を提供し、学習習慣の定着をはかる。	C
指標 ①課題の提出率を90%以上にする。(担任 93.0%) ②1日10分以上読書をする児童を75%以上にする。(72.3%)	
取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 各教科・領域指導において、対話を通じて深い学びを実現するために、言語活動を取り入れた授業を行う。	B
指標 各教科・領域指導において、対話を通じて深い学びを実現するために、ペア交流やグループ交流・全体交流など言語活動を取り入れた授業を1日に4回以上行う。(平均 4.1回実施)	
取組内容④【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 総合的な体力向上に向けて「運動チャレンジ週間」をもうけ、体を動かすことが楽しいと思う児童を育て、楽しくながら児童が体幹を鍛えられるようにする。	B
指標 ①学校アンケートにおいて「体を動かすことが楽しい」と答える児童の割合を80%以上にする。 (83.1%) ②体育のミニ研修を年間2回以上行い、基礎体力の向上をはかるための指導力を高める。 (5月に1回目を実施)	
取組内容⑤【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 心理療法の一つである動作法を取り入れ、よい姿勢で立ったり座ったりすることを児童全員に意識させて、よりよい成長発達を促し、学習に集中して取り組むことができるようとする。	C
指標 ①「よい姿勢の約束」を教室に常掲し、授業の最初に確認してよい姿勢をとらせる。(実施) ②スクールカウンセラーと連携し、姿勢の大切さに関する授業を年1回以上行う。(2回実施)	
取組内容⑥【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 各教科や領域指導にICT機器を活用し、授業を行う。	A
指標 各教科や領域指導でICT機器を活用した授業を週3回以上行う。(4.5回)	
取組内容⑦【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 健康週間を計画・実施し、「早寝・早起き」の意識を高める。	
指標 ①「早寝・早起きを意識している」と、肯定的に答える保護者の割合を55%以上にする。 (53.9%) ②小学校学力経年調査の質問項目「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」に対して、肯定的回答をする児童の割合を昨年度より向上させる。 (昨年度 寝ていますか 61.1% 起きていますか 82.9% 12月に実施)	C
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○全体の学力向上 少人数指導や習熟度別指導を取り入れ、個に応じた指導をしている。基礎的・基本的な内容を確実に定着、発展させるために、個別に課題を与えたり、家庭学習を必ず提供したりして、復習できるようにしている。また、デジタル教科書やタブレット端末の使用や指導内容を視覚的に理解できるようなデジタル教材を使うことで、わかりやすい授業を工夫するようにしている。	

○低学力児童の学力向上

少人数学習を取り入れて一人一人の学習状況を把握し、つまずきがあったときには、すぐに対応できるようにしている。また、少人数の中で自分の意見を言いやすい環境を作り、自信を持つことができるよう工夫している。理解が不十分な児童には休み時間や放課後に個別対応しするようにしている。学習した内容を教室と習熟度別教室に掲示し、常に目に入るような環境を作り、振り返りができるようにしている。

○高学力児童の学力向上

自分で見通しを立てて解決できるような場面を多く作ると同時に、解決方法をいくつか考え、それぞれの方法の良さや相違点などについて交流させ、互いに理解を深めるようにしている。また、教科書の練習問題だけでなく、補充問題や東書 Web のプリントを活用したりして、できるだけ多くの問題に取り組ませるようにしている。自分の考えを発表したり、戸惑っている友達の支援をさせたりして、さらに理解度が上がるようになっている。

○話し合い活動の充実

教科学習、道徳、学級活動などの学習時だけでなく、縦割り活動や異学年活動の際にも話し合う活動を取り入れている。発言しにくい児童も少人数で話し合う機会を設けることにより、自分の意見を言うことができ、ペアやグループで話すことに抵抗なく取り組めるようになってきている。また、グループ討議でファシリテーションが行えるよう講師を招いて研修会を行い、ファシリテーターを育てる努力をしている。

○総合的な体力の向上

- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等における体力合計点を、平均では男子は52点、女子は60点に向上し、目標を達成することができた。
- ・ 児童が気軽に外遊びができるように、ボールや一輪車、竹馬、遊具などが準備されており、運動に関心を持って取り組むことができる場の工夫を行っている。
- ・ 「スポーツチャレンジ週間」では、異学年で様々な運動に親しめる機会を設けることで、児童が新しい運動遊びに興味を示すなど、自主的な外遊びにも繋がっている。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) の達成状況

○よい姿勢

朝会や授業の前に「よい姿勢！」と声を掛け、踵を上げて下すときに姿勢を正すことを繰り返し指導し、よい姿勢の取り方の練習を重ねていることで、よい姿勢への意識が高まってきている。

(施策6 国際社会において生き抜く力の育成) の達成状況

○ICT機器の利用

- ・ デジタル教科書やNHKの番組、新出漢字の書き順動画のDVD、児童のノートや作品など、授業でのタブレットを使った学習、毛筆指導による書画カメラの活用を興味付けや理解を助けることに活用してきたことにより興味、関心を高めることができた。
- ・ 学校アンケートにおいて「ICT機器（タブレットやパソコン等）を使うことで、興味をもって学習することができましたか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は94%以上に達し、目標値を大きく上回っている。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成) の達成状況

○睡眠

家庭生活スタイルが多様化しているため、早寝が体にいいことは分かっているものの実践しにくい実

態があり、1 学期の児童アンケートにおいて肯定的に解答する児童は 50.7 % で目標値の 55 % を下回っている。

【取組内容】について

取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学力向上) の進捗状況

コーディネーター、習熟度担当者、担任が連携し、単元の特性によって少人数学習にするか習熟度学習にするかを考えて計画的に個に応じた指導を充実させている。算数科では、少人数で学習することで、児童一人一人の理解度が把握しやすく、その場で支援をすることができている。発言回数も多くなり、授業に積極的に参加できる場面が多くみられる。国語科では、作文教材で教室内で個別指導に当たることで、苦手意識の強い児童も作文も最後まであきらめずに書くことができるようになっている。「習熟度別授業は自分のペースにしているので授業内容が理解しやすい」と答える児童は、目標を上回っている。

取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(課題・読書) の進捗状況

- ① 全学年で毎日課題を提供し、学習進度に合わせ復習を中心に家庭学習に取り組ませることで学習習慣の定着を図っている。提出を忘れる児童には声をかけ、忘れた児童には休み時間や放課後に取り組ませたり次の日までに必ずしてくるように声かけをしたりしている。時には保護者に連絡して家でも確認してもらうようお願いしている。提出率は目標の 90% を上回ることができている。
- ② 朝の読書や学習が始まる前・隙間の時間の読書活動が定着してきている。あわせて、図書委員会による図書クイズの取り組みや週末に読書の課題を出している学年もあるなど本に関心を持たせるよう働きかけを行っている。また、学校図書館補助員や図書館ボランティアなどの方々の協力によって図書館や学級の図書の整備が進んだことで読書環境も整いつつあり目標の 75 % に近づいてきている。

取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(言語活動) の進捗状況

対話を通した深い学びを実現するために、ペア交流やグループ交流、全体交流などの言語活動を取り入れた授業を日に 4 回以上行ってきた。少人数での交流を取り入れることで、全体の場で表現することが苦手な児童も話をする機会を持つことができている。

取組内容④【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】(総合的な体力の向上) の進捗状況

- ① 運動場の場の設定や「スポーツチャレンジ週間」、みんな遊び、放課後遊びを通して、運動に親しむ児童が増えており、目標の 80 % を上回っている。
- ② 計画的に研修を実施できている。

取組内容⑤【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(よい姿勢) の進捗状況

- ① 「よい姿勢の約束」「姿勢体操」を教室に常掲し、クラス全体で姿勢の確認をしたり、朝の会や授業開始時に姿勢体操をしたりしている。また、授業の途中には個人的に姿勢の注意を促すようにし、長い時間、姿勢が保持できるよう工夫している。
- ② スクールカウンセラーによる動作法を指導に生かすとともに、姿勢の大切さに関する授業を 2 回実施した。

取組内容⑥【施策 6 國際社会において生き抜く力の育成】(ICT 機器の活用) の進捗状況

- ・ 算数科の図形の学習等、個人個人でタブレットやパソコンを用いる学習を行うことで、児童の興味、関心を高めることができた。
- ・ 各教科や領域指導で、デジタル教科書や書画カメラなどの ICT 機器を活用し、視覚的に理解を促した授業を週 4.5 回行うことができた。デジタル教科書や NHK for スクールなど各種コンテンツなどを利用することで、理解の定着を図っている。

取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】(睡眠) の進捗状況

- ① 学校だより、保健だより等で、睡眠の重要性を知らせている。健康週間チェックカードを通して、子どもの実態を知らせると同時に、家庭で意識して工夫したこと記入してもらい、保健だよりで知らせてきた。これらの活動を通して、睡眠の大切さを理解し、生活の中で早寝・早起きに取り組もうとする意識を高めることができている。1学期の学校アンケートにおいて、「早寝・早起きを意識している」と、肯定的に答えた保護者の割合は、約54%で、目標にかなり近づいている。
- ② 保健だよりで、睡眠について取り上げたことを紹介したり、1学期の健康週間で、就寝時刻を意識させたりして、睡眠の大切さを再確認している。低年は、9:00、中学年は9:30、高学年は10:00に就寝することが望ましいということが定着している。

今後の改善点

○全体の学力向上

わかりやすい授業を目標にこれからも教材研究・指導方法の工夫ができるようにしていく。他校の実践や文献研究なども互いに紹介しあうなどしながら授業力を高めていくようにする。また、ICT機器をさらに活用し、児童が理解しやすい授業を展開していくようにする。

単元テストで、誤答が多かった問題では、ていねいに解説を行い、再確認をするようにする。場合によっては再テストをするなどして定着を図っていくようにする。

○低学力児童の学力向上

時間の初めに既習内容の確認の時間を取って戸惑わないように学習のスタートを切れるようにする。また、児童のつまずきを確認し、その解消ができるよう常に気にかけるようにする。粘り強く頑張ったことをしっかりと褒め、周りの児童や保護者にもその頑張りを知らせるようにしていく。

○高学力児童の学力向上

友達との交流や自分の考えの説明などの機会ができるだけ多く持つようにし、自分の考えを深めていくようにする。より難しい問題にもチャレンジさせ、解決する喜びを感じさせるようにする。

○話し合い活動の充実

全体会話では、発言する児童に偏りが見られるので、指導者が意図的に指名するなどして意見を引き出すようにする。また、一問一答形式にならないように発問を工夫し、話し合いを活性化させていく。

○総合的な体力の向上

休憩時間は外遊びを奨励し、放課後の校庭開放をできるだけ確保するなどして、児童が日常的に体を動かして遊べる場を提供する。

(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) の改善点

○よい姿勢

よい姿勢ができているときは、積極的に褒めるようにする。姿勢よく生活することの大切さを引き続き保護者にも啓発していくようにする。

(施策6 国際社会において生き抜く力の育成) の改善点

○ICT機器の利用

今後も、タブレット等のICT機器を児童が操作できる機会を増やし、学習効果を上げるようにする。

(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成) の改善点

○睡眠

睡眠の大切さについて継続指導を行い、児童の意識を高めていくとともに、家庭への啓発も継続していく。

【取組内容】について

取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（学力向上）の改善点

担任と習熟度担当者がそれぞれ担当している児童の様子や指導法についての情報交換しながら、より効果的な指導方法を模索していく。

学習の理解が不十分な児童のための放課後補充学習に時間が取れるよう、会議などの回数をなるべくすくなくするよう、効率化を図る。

取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（課題・読書）の改善点

- ① 課題の提出しにくい児童が固定化してきている。学級担任だけでなくどの職員も同じ声掛け・指導ができるようにし、児童に対応していくようする。学力的に一人で取り組みにくい児童に対しては、自信を持って翌日に提出できるようその日のうちに指導者とともに取り組めるようする。また、後期に「宿題ほめほめ週間」を設定し、期間中に保護者メールでそのことを周知して子どものがんばりを讃めもらうよう保護者に呼びかける。
- ② 貸し出し可能な蔵書の幅を広げて図書室以外の場所でも児童がより多くの本を読めるようにし、さらに児童の読んでみたい本も考慮しながら蔵書の充実に努める。また、新しく購入した本をとしょかんだよりなどで児童にも知らせたり、子ども同士で興味を持った本の紹介をしあう取り組みを行ったりするなど、児童が本を手に取ってみたくなるような働きかけを行っていく。

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（言語活動）の改善点

話し方・聞き方など基本的な指導も合わせて、さまざまな場で言語活動を意識的に取り入れていく。話し合いに慣れさせるために、ペア・グループ・全体での交流の時間をさらに設けていくようする。

自分の意見を聞いてほしい思いはあるが言葉が足りなかったり、相手の話を最後まで聞くことが難しかったりなど、相手を意識した対話が難しい児童もいる。ただ話し合うだけでなく、より深い対話となるために、相手の表情や様子を見ながら話したり聞いたりすることを常に意識させ、相手の話をしっかりと聞く「よい聞き手」を育てる指導を行っていく。

取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】（総合的な体力の向上）の改善点

- ① 「スポーツチャレンジ週間」だけでなく、普段の休み時間から外へ出て体を動かすように声掛けをし、児童集会でも体を動かす活動をどんどん取り入れていくようする。
- ② 引き続き計画通り研修会を開き、研修の内容を生かして児童の指導にあたるようにする。

取組内容⑤【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（よい姿勢）の改善点

- ① 朝会時や授業開始時など毎回「よい姿勢」の声掛けをし、姿勢がよくない児童にはどんどん声を掛けて根気よく指導にあたる。また、机上を整理し、ノートをまっすぐおいて書くなどの指導を行う。
- ② まだ実施できていない学年でも授業を行うようする。実施した学年は、継続指導を行い、よい姿勢を維持できるように意識づける。

取組内容⑥【施策6 國際社会において生き抜く力の育成】（ICT機器の活用）の改善点

- ・ 学年ごとにガイドラインの見直しを行い、年間指導計画に反映させる。
- ・ 調べ学習や自主学習、データの収集や発表機器として、児童一人一人がタブレットやパソコンを使って活動できるよう指導者側が技術を習得していく。そのために、情報収集を行い、習得した技術を共有するようにする。

取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】（睡眠）の改善点

- ① 2学期の健康週間では、保護者メールで家庭に「早寝・早起き」の協力を呼び掛けていく。
- ② 2学期の健康週間実施に向けて、睡眠の大切さを再度指導し、児童に意識づけていく。